

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	国語	文学国語	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	『新 文学国語』(三省堂)	副教材 (出版社)	「セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版」(桐原書店)		
留意点				開講 予定人数	40人

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

日頃から読書を通じて積極的に文学作品に触れるようにしましょう。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション （使用教材、評価方法説明）	1 [書]	
5 6	②文学の言葉を感じ取る ・二十億光年の孤独（谷川俊太郎） ・詩を作る	4 [読]	② 【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	③解釈の多様性を楽しむ ・予感（青山七恵）	9 [読]	③ 【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	④単元テスト	1 [書]	
7			
8 9	⑤心情の表現に読みひたる ・デューク（江國香織）	12 [読]	⑤ 【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	⑥作家のストラテジーを読み解く ・バースデイ・ガール（村上春樹）	10 [読]	⑥ 【知】文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 【思】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	⑦前期期末考査	1 [書]	
10 11	⑧表現の意味を捉え直す ・こころ（夏目漱石）	16 [読]	⑧ 【知】文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
12 1		9 [書]	
2	⑨表現の意味を捉え直す ・評論文（奥泉光）	1 [書]	⑨ 【知】文学評論やそれに関する文章などについて理解を深めている。 【思】文学評論を読み、その有効性や可能性を理解し、自らも文学作品の解釈を深め、作品を論じることができている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
	⑩学年末考査		
3	⑪読み手を引き付ける表現の工夫をする ・短歌を詠む	6 [書]	⑪ 【知】文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 【思】学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
		70	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	地理歴史	地理総合	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教科書 (出版社)	高校生の地理総合 (帝国書院) 標準高等地図 (帝国書院)	副教材 (出版社)	高校生の地理総合ノート (帝国書院)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。地理的な課題の解決に向けて構想する。考察、構想したことを効果的に説明する。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1部第1章 地球儀と地図 地図と地理情報システム	4	【知】地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 【思】各種の地図や地理情報システムの特徴、利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
5	第1部第2章 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき	5	【知】世界を構成する国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。 【思】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。
6 7 9 10	第2部第1章 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 世界の産業と人々の生活 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 多様な生活文化と地理的環境 事例1～10	14 16	【知】世界の多様な生活文化が、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 【思】世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
11 12	第2部第2章 複雑に絡み合う地球的課題 人口問題 食料問題 都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題	11 16	【知】地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解している。 【思】地球的課題や、その解決のための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 2	第3部第1章 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え	12	【知】自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 【思】自然災害の特徴、防災・減災への取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3	第3部第2章 生活圏の調査と地域の展望	8	【知】生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。 【思】事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2年次	数 学	数学Ⅱ	-	必履修・必修・選択	2
科目の 目 標	いろいろな式、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	最新 数学Ⅱ (数研出版)	副教材 (出版社)	書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅱ (数研出版)		
留意点	数学Ⅰの復習をすること。		開 講 予定人数	必修のため全員	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	いろいろな式及び図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「新課程 書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート数学Ⅱ」を、授業や家庭学習で活用する。 ・2年次と3年次で教科書の内容を半分程度ずつ学習します。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 式と証明 第1節 式と計算	10	【知】 公式を用いて式の展開や因数分解したり、多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、計算することができる。 【思】 計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察したり、実数の性質や等式・不等式の性質などを基に、等式・不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。
5	第2節 等式・不等式の証明	8	【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
7	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と 2次方程式の解	9	【知】 複素数の理解と複素数の四則計算や2次方程式の解の性質、因数定理の意味を理解し、高次方程式を因数定理などを用いて解くことができる。
8	第2節 高次方程式	8	【思】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
9	【前期期末考査】	1	
10	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	12	【知】 線分を内分、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。座標平面上の直線を方程式で表すことができる。 【思】 与えられた条件から方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
11	第2節 円	8	【知】 座標平面上の円を方程式で表すことができる。簡単な場合について軌跡を求めることができる。不等式から領域、領域から不等式を求めることができる。 【思】 与えられた条件から方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。
12	【後期中間考査】	1	【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
1	第3節 軌跡と領域	11	【知】 簡単な場合について軌跡を求めることができる。不等式から領域、領域から不等式を求めることができる。 【思】 与えられた条件から方程式や不等式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
2			
3	【学年末考査】	1	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	理科	物理基礎		必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	新編物理基礎 (数研出版)	副教材 (出版社)	サンダイヤル 物理基礎の基本練習 (啓林館)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解できた。 科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーについて、身につけた知識を用いて思考できた。 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。
主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けた。

(2) 評価方法

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
観察・実験	◎	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 定期考査は年4回実施する 授業の際は問題集を持参すること。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1編 運動とエネルギー ○運動の表し方 ・速度	10	【知】等速直線運動の式および $x-t$ 図、 $v-t$ 図を理解できた。速さと速度、移動距離と変位の違いを理解できた。加速度の定義や正負の意味を理解できた。等加速度直線運動を表す 3 つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
5	・加速度 ・落体の運動		
6	【前期中間考査】		
7		16	【知】力がベクトル量であることを認識し力の合成や分解ができた。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式、運動方程式を立てて考えることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
8	○運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力		
	【前期期末考査】		
9	○仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存	12	【知】仕事、仕事率を計算して求めることができた。運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であること、運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解できた。位置エネルギーを計算することができた。さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
10		9	【知】温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できた。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができた。仕事と熱の関係や熱力学第一法則、熱機関と熱機関の効率について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
11	第2編 熱 ○熱とエネルギー ・熱と物質の状態 ・熱と仕事		
	【後期中間考査】		

月	学習内容(単元名)	時数	評価の観点
12	第3編 波 ○波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の重ね合わせの原理	8	【知】波の発生原理や基本事項を理解できた。縦波と横波の違いを理解し、縦波を横波の形で表現できた。定在波の生じるしくみ、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
1	○音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴	5	【知】音の波としての性質を理解できた。弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解できた。気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
2	【後期期末考査】		
3	第4編 電気 ○物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー	5	【知】物体の帯電するしくみ、導体・不導体・半導体の違いについて理解できた。電流と電圧の基礎について理解できた。オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できた。ジュールの法則、電力量と電力の意味について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	○磁場と交流 ・電流と磁場 ・交流と電磁波	3	【知】電流がつくる磁場の向きを判断することができた。電磁誘導の基礎、交流電圧の基本について理解できた。電磁波の振動数と波長の関係、身近に使われている電磁波の周波数について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	第5編 物理学と社会 ○エネルギーの利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電	2	【知】エネルギーの種類や身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できた。エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	2
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。 ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。 ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「 体づくり運動 」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、
	1「体づくり運動」	6	
	2「体育理論」	3	「 体育理論 」 【知】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる
5	3「球技<ネット型>（バレーボール）」 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」	9	「 器械運動（マット運動：集団） 」 【知】回転系や巧技系の基本的な技滑らかに安定して行うこと、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること、ができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を講えようとしている
6	4「球技<ネット型>（ソフトテニス）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	9	「 球技<ゴール型> 」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
7			「 球技<ネット型> 」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
8	5「球技<ネット型>（バドミントン）」 「球技<バレーボール型>サッカー +	9	「 球技<バレーボール型> 」 【知】状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
9	「バレーボール型」ソフトボール」	5+4	
10	6「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	9	「 武道（柔道） 」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている
11	7「領域選択」 ・「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 ・「器械運動（マット運動：集団）」	9	「 ダンス 」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している
12	・「ダンス」		「 スキー 」 【知】応用的・発展的な技能を習得する楽しさ・喜びを味わうとともに、斜面に応じた実践的なスキー操作をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている
1	8「体育理論」	3	
2	9「スキー」	12	※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる
3			※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	保健体育	保健		必履修・必修・選択	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考力・判断力・ 表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
学びに向かう力・ 人間性等	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・1単位科目のため欠課時数に留意すること。 ・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。 ・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「生涯の各段階における健康」 【知】生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している
	【生涯を通じる健康】		
	01「ライフステージと健康」	8	
	02「思春期と健康」		
5	03「性意識と性行動の選択」		【思】生涯を通じる健康における事象や情報などについて整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している
	04「妊娠・出産と健康」		
	05「避妊法と人工妊娠中絶」		【学】生涯の各段階の健康に関心を持ち、積極的に授業に参画している
			「労働と健康」
6			【知】労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している
	06「結婚生活と健康」	8	【思】働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している
	07「中高年期と健康」		
	08「働くことと健康」		【学】労働と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
7	09「労働災害と健康」		「環境と健康」
	10「健康的な職業生活」		【知】人間の生活や産業活動は健康に影響を及ぼすことがあること、それを防ぐためには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動はある基準に基づき行われていること、を理解している
8			【思】人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している
	【前期期末考査】	1	【学】環境と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
9	【健康を支える環境づくり】		「食品と健康」
	01「大気汚染と健康」	6	【知】食品の安全性の確保は健康を保持増進する上で重要であること、食品衛生活動は食品の安全性を確保するための基準に基づき行われていること、を理解している
	02「水質汚濁、土壌汚染と健康」		
	03「環境と健康にかかわる対策」		
10	04「ごみの処理と上下水道の整備」		【思】食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てることができる
			【学】食品と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している
	05「食品の安全性」	3	「保健医療制度及び地域の保健医療機関」
11	06「食品衛生にかかわる活動」		【知】保健・医療制度や地域の保健所・保健センター・医療機関などを適切に活用する必要があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること、を理解している
	07「保健サービスとその活用」	4	【思】地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している
	08「医療サービスとその活用」		
12	09「医薬品の制度とその活用」		【学】保健医療制度に関心を持ち、積極的に授業に参画している
			「様々な保健活動や社会的対策」
			【知】我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している
1			【思】身近な地域や世界にある健康課題について、習得した知識を基に現在必要とされていることを整理し、自他の健康を保持増進するための環境づくりに主体的に参加する態度を身に付けている
	10「さまざまな保健活動や社会的対策」	3	【学】中高年期の健康について関心を持ち、積極的に授業に参画している
2	11「健康に関する環境づくりと社会参加」		「健康に関する環境づくりと社会参加」
			【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりに積極的に参加していくことが必要であること、そのためには適切な健康情報の活用が有効であること、を理解している
	【後期期末考査】	1	【思】ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりに積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる
3			【学】健康に関する環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	芸術	美術 I		必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	美術 1 (光村図書)	副教材 (出版社)	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費として 4,000円程度を徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。 			開講 予定人数	21人

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
制作物、小テスト	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール） ・鉛筆デッサン 	2 10	<p>【知】 形や陰影などの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて用具の特性を生かすとともに、デッサンの表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、形態や陰影などの表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デッサンの美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的にデッサンの鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の基本 ・油彩（静物） 	4 18	<p>【知】 油彩の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 油彩の制作方法をふまえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 モチーフをよく観察し、油彩の特徴を理解し、追求しながら構想している。</p> <p>【発】主題に応じて油彩の表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 油彩の美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的に油彩の表現の多様さを感じ取り、鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・立体 	16	<p>【知】 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 制作方法を踏まえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。</p> <p>【発】 主題に応じて表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 美しさを感じ取り、作者の意図と制作工程における工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的に制作工程における工夫などについて考え、作品の鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン 	18	<p>【知】 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、デザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわしている。</p> <p>【発】 ものの形や色の特徴などから主題を生成し、形と色の組み合わせや構成などの効果について考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間まとめ 	2	

※単元の進捗状況により、単元の順序や内容変更の可能性があります。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	英語	英語コミュニケーションⅡ	-	必修・ 必修 ・選択	2
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の 5 つの領域において言語活動及びこれら結び付けられた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication II (東京書籍)	副教材 (出版社)	All Aboard II WORKBOOK II (東京書籍)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト リスニングテスト 等		◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等		○	◎	◎
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	Pre-Lesson	1	(知) 関係代名詞 what を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 海外の行ってみたい所・そこでしてみたいことをまとめる。 (主) 海外の行ってみたい所について自分の意見をまとめる。
	Lesson 1	8	
5	Let' Listen 1	2	(知) ホテルにチェックインする時に使われる文の形・意味を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。
	Communication 1	2	
6	Lesson 2	8	(知) 比較表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめようとしている。
	前期中間考査	1	
7	World Box 1	2	(知) 感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えている。 (主) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えようとしている。
	Lesson 3	10	
8	Lesson 3	10	(知) 形式主語 it を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	後期期末考査 文法のまとめ	1 2	
9	Lesson 4	10	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	後期中間考査 Let' s Listen 2	1 2	
10	Extra Target 1	3	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	World Box 2	3	
11	Lesson 5	10	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	後期期末考査	1	
12	World Box 3	3	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	Clothes		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2 学年	芸術（音楽）	音楽 I		必修・必修・選択	2
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。 				
教科書（出版社）	教育出版 音楽 I Tutti+	副教材（出版社）	自作のプリント、楽譜など		
留意点				開講 予定人数	25 人

2 評価の方法

（1） 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<p>【知】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>【技】 姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。</p>
思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>
主体的に学習に取り組む態度・	<p>西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で迎えることに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>器楽アンサンブルや合唱の発表、独唱のテストに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

（2） 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	○		○
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

※楽典、ギター、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、など幅広く取り組みます。

※タブレット、紙ファイル A4 版、五線ノート 8 段～12 段を用意してください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	ガイダンス、校歌、カーロミオベン、 楽典（楽譜の基本的な知識学習）	6	【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚する。
5	イタリア歌曲「カーロ・ミオ・ベン」 楽典基本問題集、確認テスト	8	【知】「カーロミオベン」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚する。
6	楽典基本問題集 ギター基礎知識 確認発表	6	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。
7	ギター音の出し方 確認発表	6	【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
8	・ギターメロディーを弾くためのテクニック・アルペジオ 確認発表	4	ギター奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
9	変奏曲の魅力を探ろうーパガニーニが 残した名変奏曲ー古の音楽に思いをは せよう ー雅楽、悠久の響きー	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。
10	リコーダーアンサンブルを楽しもう	6	【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
11	オーケストラの魅力を探ろう ー二つの旋律から広がる音楽ー 吹奏楽の魅力を味わおう ー鯨のモチーフが紡ぎ出す雄大なドラ マー	4 4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。
12	名曲プレゼンテーションーさまざまな 時代のピアノ曲を聴こうー物語と音楽 との関わりに注目しよう ー総合芸術における音楽の魅力ー	4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。

1	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	2	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
2	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	4	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。
3	コンサートを開こう—音楽Ⅰのまとめとして—	4	【知】音楽Ⅰの1年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。【技】音楽Ⅰの1年間の学習における技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚する。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	英語	英語コミュニケーションⅡ	-	必履修・ 必修 ・選択	2
科目の 目 標	① 必要な情報を聞き取り、読み取り。話し手・書き手の意図を把握する。また、概要や要点を目的に応じて捉える。 ② 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝えることができる。				
教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication Ⅱ (東京書籍)	副教材 (出版社)	All Aboard Ⅱ WORKBOOK Ⅱ (東京書籍) クラウン チャンクで英単語 Basic (三省堂)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	定期考査、リスニングテストや小テスト等
思考・判断・表現	定期考査、ワークシート、パフォーマンステスト等
主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み、提出物

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	○
ワークシート	○	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	Pre-Lesson	1	
	Lesson 1	8	(知) 関係代名詞 what を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 海外の行ってみたい所・そこでしてみたいことをまとめる。 (主) 海外の行ってみたい所について自分の意見をまとめる。
5	Let' Listen 1	2	(知) ホテルにチェックインする時に使われる文の形・意味を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。
	Communication 1	2	(知) 病院で診察を受けるにあたり。症状や気分を説明する仕方を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。
6	Lesson 2	8	(知) 比較表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめようとしている。
	前期中間考査	1	
7	World Box 1	2	(知) 感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えている。 (主) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えようとしている。
	Lesson 3	10	(知) 形式主語 it を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
8	Lesson 3	10	(知) 形式主語 it を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	後期期末考査	1	
9	文法のまとめ	2	
	Lesson 4	10	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
10	Lesson 4	10	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。
	後期中間考査	1	
11	Let' s Listen 2	2	
	Extra Target 1	3	
12	World Box 2	3	
	Lesson 5	10	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
1	Lesson 5	10	(知) to 不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。
	後期期末考査	1	
2	World Box 3	3	
	Clothes	3	
3	World Box 3	3	
	Clothes	3	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	家庭科	家庭基礎	-	必履修・必修・選択	2
科目の 目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして生涯を見通して課題を解決する力を養う</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う</p>				
教科書 (出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍 家基 701)	副教材 (出版社)			
留意点	実習費3,000円徴収します			開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技・単元テスト		○		
ワークシート			○	○
学習観察				○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション 第1章 生涯を見通す	1 2	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し、表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている
5	第2章 人生をつくる	5	青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している	家族の一員として役割を果たし、家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に取り組んでいる
6	第7章 衣生活をつくる	10	被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている	被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について考察することができる	衣生活と健康について、課題の解決に取り組んでいる
7	第9章 経済生活を営む	8	家計の構造や生活の経済と社会の関わり、家計管理について理解している	生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度と関連付け、問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	消費行動と意思決定について、課題の解決に取り組んでいる
8	第10章 持続可能な生活を営む	2	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解している	持続可能な社会を目指して行動できるよう問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に取り組んでいる
9	第8章 住生活をつくる	5	住生活の特徴、機能について理解し、計画・管理の技能を身に付けている	住居の機能性や快適性について考察することができる	住生活と住環境について、課題の解決に取り組んでいる
10	第3章 子どもと共に育つ	9	幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる	子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
11	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	17	栄養の特徴や食品の性質、健康や環境、安全に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察することができる	食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
12	第4章 超高齢社会を共に生きる	5 1	高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
1	第5章 共に生き、共に支える	3	家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している	家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている	よりよい社会の構築に向けて共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
2	第11章 これからの生活を創造する	1	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている
3					

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（電気）	電気実習	-	必履修・ 必修 ・選択	6
科目の 目 標	<p>①知識及び技術 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
学習観察	◎	◎	◎
レポート		◎	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○第2種電気工事士対策	60	【知】 低圧屋内配線における各種作業方法について理解している。 【思】 低圧屋内配線における配線・法令などを理解している。 【主】 資格取得に向け、意欲的に学ぼうとしている。
5			
6	○電気実習（電気回路） 絶縁抵抗計による絶縁抵抗の測定 接地抵抗計による接地抵抗の測定 RLC回路の位相特性	30	【知】 各種電気回路の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電気回路に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
7	LC回路のX-f特性 直列共振回路 並列共振回路		
8	○電気実習（電子回路） 電子計測器の取り扱い ダイオードに関する実験 トランジスタの静特性	30	【知】 各種電子回路の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電子回路に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
9	増幅回路の特性（入出力・周波数） 整流回路に関する実験 定電圧回路に関する実験 パルス回路に関する実験Ⅰ・Ⅱ		
10	○電気実習（電気機器） 直流電動機の起動・速度制御 直流電動機の負荷・無負荷特性 直流発電機の負荷・無負荷特性 単相変圧器の変圧比・極性試験	45	【知】 各種電気機器の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電気機器に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
11	単相変圧器の特性試験 単相電力・力率の測定 単相変圧器の三相結線 交流モータの原理 電気動力計による三相誘導電動機		
12	の負荷特性 単相（交流）電力量計の誤差試験 単相電力計による三相電力の測定 三相誘導電動機の無負荷試験・拘束試験		
1	三相誘導電動機の色度制御		
2	○電気実習（電気制御） PCによる制御(8bit LED)Ⅰ・Ⅱ PCによる制御(Nゲージ)Ⅰ・Ⅱ 論理回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ シーケンス制御(基本・応用)	36	【知】 各種電気制御の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電気制御に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
3	○電気実習（製作） 直流安定化電源の製作	9	【知】 製作に必要な知識・技術を身に付けている。 【思】 設計・手順などを考察し作業ができています。 【主】 製作に関心をもち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（電気）	電気回路	-	必履修・ 必修 ・選択	2
科目の 目 標	<p>①知識及び技術 電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 （出版社）	わかりやすい電気基礎 （コロナ社）	副教材 （出版社）			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

（1）評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

（2）評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート	◎	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第二種電気工事士試験対策	12	【知】低圧屋内配線における電気の基礎理論を理解し、各種計算ができる。 【思】低圧屋内配線における検査方法及び法令等を理解し、種々の課題を解決できる。 【主】資格取得に向け、意欲的に学習に取り組んでいる。
5			
6	【前期中間考査】	1	
7	第3章 静電気	12	【知】静電気の性質や諸現象について理解し、学習した公式により、各種の計算ができる。 【思】電荷、電界、電気力線、誘電体などを理解し、種々の課題解決に応用できる。 【主】静電気の性質や事象について関心をもち、意欲的に学習している。
8	1. 静電現象 2. コンデンサと静電容量		
	【前期期末考査】	1	
9	第5章 交流回路	20	【知】交流を記述する方法、交流回路での動作を理解し、学習した公式により、交流回路の計算できる。 【思】交流を記述する方法を理解し、さまざまな電気回路に応用できる。 【主】豊かな生活に欠かせない交流電気に関心をもち、意欲的に学習している。
10	1. 正弦波交流の性質 2. 交流回路の取扱い方 3. 交流回路の電力 4. 複素数 5. 記号法による交流回路の取扱い 6. 三相交流		
11	【後期中間考査】	1	
12	第3章 各種の波形	10	【知】非正弦波交流、パルスの扱い、過渡現象を理解し、学習した公式を用いて、種々の値を計算できる。 【思】各種の波形の性質・特徴を理解し、電気回路、電子回路での用途について把握できている。 【主】直流や正弦波交流以外のさまざまな種類の電気信号に関心をもち、学習している。
	1. 非正弦波交流 2. 過渡現象		
1	第7章 電気計測	12	【知】測定器の種類を理解し、各測定器で測定できる電気量についても理解し、測定器を正しく取り扱うことができる。 【思】電気の測定について動作原理を理解し、実際に活用することができる。 【主】直接見ることのできない電気について、その測定方法に関心をもち、電気現象を意欲的に学習できているか。
2	1. 測定の基本と測定量の取り扱い 2. 電気計測の基礎 3. 基礎量の測定		
3	【学期末考査】	1	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	電気	電気機器	-	必履修・ 必修 ・選択	2
科目の目標	①知識及び技術 電気機器についてエネルギーの変換を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 電気機器に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 電気機器に関わる電気エネルギーを活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教科書 (出版社)	電気機器 (オーム社)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	電気機器についてエネルギーの変換を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	電気機器に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	電気機器に関わる電気エネルギーを活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第2種電気工事士試験対策	12	【知】 低圧屋内配線における各種計算方法について理解している。 【思】 低圧屋内配線における機器の利用を理解している。 【主】 資格取得に向け、意欲的に学ぼうとしている。
5	【前期中間考査】	1	
6	第1章 直流機	15	【知】 直流機の原理や構造について理解している。 直流機の各種計算方法について理解している。
7	1. 直流機の原理と構造 2. 直流発電機 3. 直流電動機 4. 直流機の損失と効率		【思】 電機子反作用が与える影響とその防止について理解ができる。 直流機の電機子と界磁の関係より各種特性が理解できる。 損失が生じる要因が理解できる。 始動と速度制御について理解できる。
8			【主】 直流機に関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	【前期期末考査】	1	
10	第2章 変圧器	15	【知】 変圧器の原理や構造について理解している。 等価回路を描くことができる。 変圧器の各種計算方法について理解している。 三相結線における電流・電圧の計算方法を理解している。
11	1. 変圧器の原理・種類・構造 2. 変圧器の損失・電圧変動率 3. 変圧器の結線		【思】 巻数比・電圧・電流などの関係が理解できる。 各電圧・電流のベクトルが理解できる。 変圧器の損失と効率の関係が理解できる。 単巻変圧器及び計器用変成器の利用法を理解している。
	【後期中間考査】	1	【主】 変圧器に関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。
12	第3章 誘導機	12	【知】 誘導機の原理や構造について理解している。 誘導機の各種計算方法について理解している。
1	1. 誘導機の原理・構造 2. 同期速度と滑り 3. 等価回路 4. 誘導電動機の特 5. 誘導電動機の始動・速度制御		【思】 誘導電動機の運転特性が理解できる。 誘導電動機の始動法・速度制御を理解できる。
2			【主】 誘導機に関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。
3	第4章 同期機	12	【知】 同期機の原理や構造について理解している。 同期機の各種計算方法について理解している。
	1. 同期発電機の構造と種類 2. 同期発電機の誘導起電力 3. 同期発電機の特 4. 同期電動機の特		【思】 同期発電機の特 同期発電機の並行運転が理解できる。
	【学年末考査】	1	【主】 同期機に関心をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	区分	単位数
2学年	電気	電子回路	必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目標	<p>①知識及び技能 電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
教科書 (出版社)	電子回路 (実教出版)	副教材 (出版社)		
留意点			開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようになる。
思考・判断・表現	電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付ける。
主体的に学習に取り組む態度	電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	資格取得へ向けての問題	8	資格取得合格に向け、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。
5	【前期中間考査】	1	
6	1章 電子回路素子 1. 半導体	8	【知】電子の特性・半導体の特性について理解している。 【思】 【主】電子・半導体などに関心をもち、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。
7	2. ダイオード	8	
8	3. トランジスタ	8	【知】ダイオードの構造・特性について理解している。 【思】ダイオードの基本動作を説明できる。 降伏現象を説明できる。 【主】ダイオードに関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。 【知】トランジスタの構造・特性について理解している。 【思】電流増幅作用を説明できる。 トランジスタの静特性を説明できる。 【主】トランジスタに関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
9	【前期期末考査】	1	
10	2章 増幅回路の基礎 2. トランジスタ増幅回路の基礎	5	【知】増幅の原理について理解し、説明できる。 【思】増幅作用を理解し、電流値・増幅率を計算できる。 【主】増幅回路に関心をもち、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。
11	3. トランジスタのバイアス回路	8	
12	【後期中間考査】	1	【知】様々な種類のバイアス回路を理解している。 【思】各種回路の増幅度など、適切な公式を選べる。 【主】
1	3章 いろいろな増幅回路 1. 負帰還増幅回路	8	【知】負帰還の仕組みについて理解している。 【思】帰還量・帰還率を計算できる。 【主】各種回路に関心をもち、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。
2	2. 差動増幅回路と演算増幅器	5	
3	【後期期末考査】	1	【知】差動・演算増幅の特性について理解している。 【思】基本的な動作・使用用途を説明できる。 【主】
	4章 発振回路 1. 発振回路の基礎	4	【知】発振回路の原理・条件を理解している。 【思】位相条件・利得条件について説明できる。 【主】発振回路の種類を正確に分類できる。 【知】コイル・コンデンサを用いた回路を理解している。 【思】様々な回路の発振周波数を適切な公式を用いて計算できる。 【主】
	2. LC 発振回路	4	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築実習	-	必履修・必修・選択	3
科目の 目 標	建築の各分野に関する技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築における基礎的な加工技術や基礎的な生産技術などを身につけるようにする。
思考・判断・表現	様々な実習を通して、作業における適切な判断力を養い、安全かつ効率的な加工技術等を身につけるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	建築に関する興味や関心を育み、実際の作業を通して、自ら考え動く力を養成する。また、建築の発展を図る意欲的な態度を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
レポート・製作物	○	○	○
授業への取組	○		○
課題の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・実習機器の取扱い ・安全作業の徹底（整理整頓、身だしなみ）

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
	○水準測量実習	6	【知】水準測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
5	○溶接実習	3	【知】溶接機器の取扱いについて理解している。 【思】安全かつ効率良く作業をするために判断し実践できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	○材料実験	9	【知】材料実験の目的を理解し、与えられた情報を正しく理解できる。 【思】得られたデータについて判断し、適切に評価できる。 【主】実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
7	○3／4軸組模型の製作実習	12	【知】部材名と作業工程を理解し作業進められる。 【思】周囲の状況を判断し、協働的に作業に取組むことができる。 【主】実習に主体的かつ効率的に取組もうとしている。
8	○光波測量実習	6	【知】光波測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	○現場実習	12	【知】現場実習の目的を理解し、取組むことができる。 【思】現場の状況を判断し、適切な行動を取ることができる。 【主】実習に意欲的かつ主体的に取組んでいる。
10	○PCの基本操作実習	15	【知】PCの基本的な操作について理解している。 【思】文書作成などの課題において適切な操作をすることができる。 【主】実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
11	○木材加工実習	6	【知】各種工作機械を正しく使用することができる。 【思】各種工作機械を正しく選定することができる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
12	○木工作品実習	18	【知】作品製作において必要な加工をすることができる。 【思】計画的に作業を行い、必要な加工を判断することができる。 【主】実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
1			
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築実習	-	必履修・必修・選択	3
科目の 目標	<p>建築に関する技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>(1) 建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
授業や課題への取組	◎	◎	◎
実習日報等	○	○	◎
授業態度	◎	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。
- ・授業ごとに各観点に沿った評価を行い、課題終了時に総合的な評価を行います。
- ・安全管理の徹底、手順の理解、班員との協力を特に留意する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
	○水準測量実習	9	【知】水準測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
5	○溶接実習	9	【知】溶接機器の取扱いについて理解している。 【思】安全かつ効率良く作業をするために判断し実践できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	○材料実験	9	【知】材料実験の目的を理解し、与えられた情報を正しく理解できる。 【思】得られたデータについて判断し、適切に評価できる。 【主】実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
7	○3／4軸組模型の製作実習	12	【知】部材名と作業工程を理解し作業進められる。 【思】周囲の状況を判断し、協働的に作業に取組むことができる。 【主】実習に主体的かつ効率的に取組もうとしている。
8	○光波測量実習	6	【知】光波測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	○現場実習	18	【知】現場実習の目的を理解し、取組むことができる。 【思】現場の状況を判断し、適切な行動を取ることができる。 【主】実習に意欲的かつ主体的に取組んでいる。
10	○PCの基本操作実習	15	【知】PCの基本的な操作について理解している。 【思】文書作成などの課題において適切な操作をすることができる。 【主】実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
11	○木材加工実習	6	【知】各種工作機械を正しく使用することができる。 【思】各種工作機械を正しく選定することができる。 【主】実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
12	○木工作品実習	18	【知】作品製作において必要な加工をすることができる。 【思】計画的に作業を行い、必要な加工を判断することができる。 【主】実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
1			
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築製図	-	必履修・ 必修 ・選択	4
科目の目標	<p>製図に関する日本産業規格及び建築の製図に関する知識と技術を習得させ、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。</p> <p>① 建築設計製図の基本を学び、設計製図法に至るまで段階を迫って学習する。 ② CADによる設計製図の概要を学習する。 ③ 建築に関する基礎知識を、総合的にまとめる能力を身につけるように学習する。</p>				
教科書（出版社）	建築設計製図（実教出版）	副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

（1） 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

（2） 評価方法

評価方法 \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
レポート・製作物	○	○	○
授業への取組	○		○
課題の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 製図は建築の専門教科の基礎となり、また総合的な理解が必要な科目です。 しっかりと知識や技術を身につけ、提出期限は厳守ですので、計画的に作図するように心掛けること。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	2	
	○第1章 製図の基本	14	①知識及び技能 ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②思考、判断、表現 ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を身に付けている。 ③主体的に学習に取り組む態度 ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	1) 製図用具と使い方		
	1 製図を行う環境		
	2 製図用具		
	3 線		
	2) 製図規約		
	1 製図に用いる線		
	2 製図に用いる文字		
	3 図面		
	4 図の配置		
	5 尺度		
5	○第2章 建築の設計製図	12	
	1) 設計に用いられる図面		
	1 図面の分類とその役割		
	2 各種図面の表記事項		
6	○第3章 木構造の設計製図	40	
	1) 木構造の設計		
7	1 設計の進め方		
	2 木構造設計の基礎知識		
8	2) 木造住宅の設計製図		
	1 平家建専用住宅設計製図		
9	2 2階建専用住宅設計製図		
10	○第7章 建築設計と情報技術	24	
	1) CADの概要		
11	1 建築CADの種類		
	2 CADの基本的な操作		
12			
	○第4章 RC構造の設計製図 （鉄筋コンクリート構造）	48	
1	1) RC構造の設計		
	1 設計手順		
2	2 RC構造設計の基礎知識		
	2) RC構造の製図		
3	1 店舗付事務所設計図		
	2 住宅設計図		
	3 集合住宅設計図		
		計 140	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築製図	-	必履修・ 必修 ・選択	4
科目の 目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	建築設計製図（実教出版）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
レポート・製作物	○	○	○
授業への取組	○	○	○
課題の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

- 定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	2	
	○第1章 製図の基本	14	①知識及び技能 ・工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ②思考、判断、表現 ・製作図や設計図に関する課題を発見し、工業携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を身に付けている。 ③主体的に学習に取り組む態度 ・工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	1) 製図用具と使い方		
	1 製図を行う環境		
	2 製図用具		
	3 線		
	2) 製図規約		
	1 製図に用いる線		
	2 製図に用いる文字		
	3 図面		
	4 図の配置		
	5 尺度		
5	○第2章 建築の設計製図	12	
	1) 設計に用いられる図面		
	1 図面の分類とその役割		
	2 各種図面の表記事項		
6	○第3章 木構造の設計製図	40	
	1) 木構造の設計		
7	1 設計の進め方		
	2 木構造設計の基礎知識		
8	2) 木造住宅の設計製図		
	1 平家建専用住宅設計製図		
9	2 2階建専用住宅設計製図		
10	○第7章 建築設計と情報技術	24	
	1) CADの概要		
11	1 建築CADの種類		
	2 CADの基本的な操作		
12			
	○第4章 RC構造の設計製図 （鉄筋コンクリート構造）	48	
1	1) RC構造の設計		
2	1 設計手順		
	2 RC構造設計の基礎知識		
3	2) RC構造の製図		
	1 店舗付事務所設計図		
	2 住宅設計図		
	3 集合住宅設計図		
		計 140	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築構造設計		必修・ 必修 ・選択	3
科目の 目標	<p>①知識及び技能 構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の進展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 （出版社）	建築構造設計（実教出版）	副教材 （出版社）	なし		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、基本的な知識・技術を身に付けている。
思考・判断・表現	構造物に関する力学的な課題について、科学的な根拠に基づき解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査（年4回） 小テスト		◎	◎	○
課題・レポート		○	◎	◎
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	「構造設計」を学ぶにあたって 1. 建築物に働く力	1 20	【知・技】 建築物を観察し、建築物に働くさまざまな力を理解しているとともに、建築物を力学上の表現で表すことができる。 【思・判・表】 建築物の力学的な特性に着目して、構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。
5	●前期中間考査	1	【主体】 建築物に働く力の分類およびその影響に関して自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
6	2. 静定構造物に働く力 3. 部材に関する力学	20 20	【知・技】 静定構造物に働く力について力のつり合い条件や応力を踏まえて理解しているとともに、図に表すことができる。 【思・判・表】 構造物の力学的な特性に着目して、構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。
7 8	●前期期末考査	1	【主体】 静定構造物に働く力について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
9	4. 不静定構造物に働く力	15	【知・技】 不静定梁に働く力について力の釣合条件と部材の変形を踏まえて求める方法を理解しているとともに、部材に生じる力を求めることができる。 【思・判・表】 不静定構造物を構成する部材の変形条件に着目して、不静定構造物に働く力に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。
10 11	●後期中間考査	1	【主体】 不静定構造物の設計について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
12 1	5. 各種構造物の設計	15	【知・技】 各構造の設計の概要と設計法について構造体による手法の違いを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思・判・表】 各構造の構造的な特徴に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する力を身に付けている。
2	6. 建築物の構造設計	1	【主体】 各種構造物の設計について自ら学び、安全で安心な構造物の設計に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
3	●学年末考査	10	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
2学年	工業（建築）	建築計画		必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	建築計画（実教出版）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査		○	○	
課題や授業への取組		○	○	○
課題等の提出状況			○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 各分野別の内容を捉えて理解すること

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	1	
5	○建築と環境 ア 気候 イ 光 ウ 音 エ 熱 オ 色彩	16	【知】左記ア～オについて快適な環境にするための諸条件を理解している。 【思】用語の定義や単位、基本式等を理解し、適切な判断できる。 【主】主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
6			
7	○住宅の計画	15	【知】基本的な空間や住宅の性能および、計画の進め方等について理解している。 【思】各室の形式や形態、適正な規模等、さまざまな条件に対応した各室の計画の方法などについて判断や表現ができる。 【主】計画の特質を理解し、主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
8			
9	○建築の移り変わり	15	【知】日本や世界の原始から近代に至るまでの住宅や宗教建築、時代の移り変わりなどをはじめ、建築の基本的な考え方を理解している。 【思】建築物の発展過程をはじめ、建築計画への応用など、現代の建築は、どのような要求と必然性から生み出されてきたのかなどについて思考し判断や表現ができる。 【主】建築の発展過程への理解を主体的かつ意欲的に取組んでいる。
10			
11	○各種建築物の計画	10	【知】戸建て住宅以外の建築物の役割や種類、機能について計画上の特質を理解している。 【思】各種建築物の形式や形態、適正な規模等、さまざまな条件に対応した各室の計画の方法などについて判断や表現ができる。 【主】計画の特質を理解し、主体的かつ意欲的に取組もうとしている。
12			
1	○都市と地域の計画	5	【知】都市における都市計画の目的や理念をはじめ、都市計画の基本的な仕組みについて理解している。 【思】建築と地域の関わりをはじめ、都市に建築物を計画するときの配慮すべき事項を思考、判断し表現している。 【主】まちづくり等に主体的かつ意欲的に理解しようとしている。
2	○建築設備の計画	8	【知】建築設備の目的や内容、設備計画を行うにあたっての基本事項などを理解している。 【思】建築設備の計画方法などについて思考、判断し表現している。 【主】主体的かつ意欲的に理解し、取組もうとしている。
3			